

活用事例	1 授業中に地震が発生した場合の避難訓練 【特色】緊急地震速報の活用		
学校名	県立田布施農工高等学校		
日時	平成25年12月11日(水) 3時間目		
場所	グラウンド (雨天時：体育館)	参加者	生徒・教職員

1 訓練のねらい

参加者が緊急地震速報の存在を知り、地震発生時に安全に避難するための避難行動を習得し、緊急時に対応できるような体制を整える。

地震の効果音(約10秒)

「地震が収まりました。周囲の安全を確認し、落ち着いて避難場所に避難してください。」

※ 生徒は、放送終了後、担任または担当教諭の指示に従い避難行動を開始

2 訓練の概要

(1) 事前指導

- 緊急地震速報の前に、訓練の手順についての放送説明をする。

(2) 訓練開始



- 気象庁作成の訓練用緊急地震速報を流す。

「(アラーム音の後) 緊急地震速報、緊急地震速報、まもなく大きな地震がきます。落ち着いて身の安全を確保してください。」

※ 緊急地震速報直後に地震が発生

本部：避難状況の把握

- 担当教諭が人員を把握し、避難経路を指示する。



〔避難経路〕

- ☆ A3、F3、A2、F2、A1、F1
→ 昇降口から出てレスリング場側を通りグラウンド
- ☆ E3、M3、E2、M2、E1、M1
→ 事務室横を出て体育館横坂道からグラウンド



・避難場所

グラウンド（雨天時：体育館）

- 各クラスごとに整列（朝礼隊形）後、委員長が点呼し本部に報告する。



- 訓練状況報告（生徒会長）
- 管理責任者訓辞（教頭）



(3) その他

- ① 生徒は、緊急地震速報をよく聞き行動する。
- ② 避難行動は無言ですばやく行う。

- ③ スリッパのままグラウンドに避難する。
※雨天時、体育館へ避難する際はスリッパを持って入場する。
- ④ 全教職員も避難し整列する。担任は各クラスの最後尾に並ぶ。
- ⑤ 防災訓練についての気付きがあれば、学校安全部まで連絡する。

3 訓練の成果と課題

【成果】

雨天のため、避難場所を体育館に指定した。災害時には状況に応じた行動が求められる。特に、地震の時などは雨天でも屋外への避難が考えられるかもしれない。

集団行動等、TPOに応じた落ち着いた行動は全体的にできていた。普段の学校生活から、集団行動における指導「無言で、迅速に、落ち着いて」が身に付いてきていると感じている。

【課題】

災害は、いつどんなときに起こるか分からない。本校は専門高校であるため、生徒が学校の広範囲に移動して授業を受けることが多い。実習等の授業において、迅速な人員把握や移動が可能であるか等、より非常時を想定した訓練も必要である。